関数に渡すデータ→引数

関数から返されるデータ→戻り値

演習3-9は関数に引数も戻り値もないため、メイン関数で定義したnとは全く別物の無関係なnがprintfによって出力されている。

演習3-10には戻り値はないが引数が設定されているため、メイン関数の中でのn=20が関数内のmに渡され、printfによってメイン関数のnと関数のmは同じ値を出力した。3-9と同様に関数内のnはメイン関数とは無関係なものになるため、0が出力された。

演習3-11は、引数が定義されることによって、メイン関数で設定したnが関数に送られ、関数内で数値が変わりprintfによって出力されたが、戻り値が設定されていないため、関数内で変更されたnの値はメイン関数内では保存されず、関数に渡す前のnと同じ状態になっている。

演習3-12では、nをグローバル変数としたことにより、メイン関数とその他の関数でnの情報は共有されているため、関数の中で操作された値はメイン関数の中でも共有され、メイン関数内で特に何もしなくても、nの値が変わった。